

事務事業名		コード	22900	米の力再発見事業		予算科目	会計		款	項	目	事業種別
							一般	6	1	3		
施策体系	基本施策	1		農水産業の振興		根拠法令						
	施策の展開	1		農畜産物の生産振興		戦略事業	2	米の力再発見事業				
	施策の展開					戦略事業						
												☒ 主な事業（重点施策） ☐ 国土強靱化地域計画 ☒ 新市建設計画 ☒ 定住自立圏構想 ☐ 主要事業

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない		
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 21 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで		・旭市まちおこし産品推進協議会は農商工関係者により構成されており、米の新たな利用方法として米粉の推進を行っている。 ・旭市産米を使った米粉の利用拡大を進めるため、その利用法を掘り起こし農業者と商工業者が連携して製造・商品化を進める。 ・商品開発、販売促進、需要喚起のためのPR活動をし、本格的な米粉普及へ向けた取り組みを行う。 ・活動内容は、各種イベントや料理教室での実演・試食などのPR、米粉利用促進のための学校給食へ米粉提供、レシピ集の作成、米粉製品開発取り組み業者の新規開拓と米粉提供を行う。		
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化		⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
・食生活の多様化により米の消費量が減少傾向にあるため、米の消費拡大に向け新たな利用法として米粉の普及に取り組んだ。		・料理教室で参加者に行ったアンケートの結果から、米粉は「利用してみたいものの、利用の仕方が分からない」という意見が最も多く、近年グルテンフリーが注目されていることもあり「米粉は健康的」であるというイメージを持つ方が増えている。		・商業者：米粉と小麦粉の価格差が大きく、商品化をしても継続して消費者に受け入れられるか難しく本格的には取り組みえない。 ・学校給食担当課：現在米粉の提供を受けて実施している活動（給食等）は費用負担してまでは継続できない。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(30年度の決算) 単位:千円							
1.負担金補助及び交付金	627	米の力再発見事業補助金					
② 特定財源の内訳(30年度の決算) 単位:千円							
1.国庫支出金	0						
2.都道府県支出金	0						
3.地方債	0						
4.その他	0						

事業費	費目内訳	1. 負担金補助及び交付金	千円	27年度(決算)	396	28年度(決算)	517	29年度(決算)	567	30年度(決算)	627	31年度(予算)	640
			千円										
			千円										
			千円										
			千円										
	事業費計 (A)		千円		396	517	567	627	640				
財源	1. 国庫支出金	2. 都道府県支出金	千円										
		3. 地方債	千円										
		4. その他	千円										
		5. 一般財源	千円		396	517	567	627	640				
			千円		396	517	567	627	640				

前年度増減理由	新規事業として外部講師を招いたグルテンフリー料理教室を一般市民向けに実施したため
---------	--

従事職員数	常時 2 人	最大 3 人	× 5 日	= 延べ 15 人
-------	--------	--------	-------	-----------

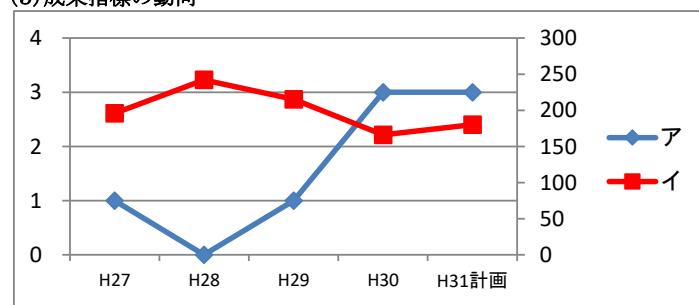
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動		③ 活動指標名		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
	30年度実績(30年度に行った主な活動) ・旭市まちおこし産品推進協議会会議の開催 ・料理教室の開催、米粉の助成 ・学校給食への米粉提供 ・PR活動(旭市産業まつりへの出店) ・米粉製品のパンフレット作成		ア 新たに米粉商品の開発・販売に取り組む商業者数		人	1	0	1	3	3
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)		イ 料理教室開催数(協賛・米粉助成含む)		回	6	9	6	6	6
	対象 農業者 商工業者 ・米粉用米の生産者が継続して生産を行うことができ、商工業者が市内産の材料を使った商品を開発・販売することができる。また、市民が主食以外の米を食べることができる。 対象 市民 ・米粉の利用方法を紹介し、米粉の認知度を上げるとともに、家庭における米粉の利用促進を図る。		④ 成果指標名		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
意図			ア 米粉・米粉商品の商品化数		件	1	0	1	3	3
			イ 料理教室参加者		人	196	242	215	166	180

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		② コスト削減優先度評価結果		
施策貢献度	大きい	成果優先度	成果向上余地	
	普通		かなりある	
	小さい		ある程度ある	
			ほとんどない	
		評価結果	コスト比率	
			下位 1/3	
			中位 1/3	
			上位 1/3	
		①		
			②	
			③	
			④⑤	
		⑥	(4)	
			⑦⑧	
			⑨	

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難				
	【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)					
	② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	数値増＝成果向上	数値増＝成果向上	比較
	【コメント】(低下の場合、その理由)	成果指標ア	成果指標イ	数値増＝成果向上	数値増＝成果向上	成果動向
	③ 今年度取組事項(31年度に取り組む主な事項について記載)	時期	内容		今後の方向性	令和元年度
		令和元年度	市民への米粉アビールのため、米粉を使った料理教室の開催、イベントでのPRを引き続き実施する。なお、米粉普及に関する事業は一定の効果があつたものとし、年度内に今後の事業の方向性を決定する。		令和元年度	米粉普及に関する事業は一定の効果があつたものとし、年度内に今後の事業の方向性を決定する。